

『今日は、石碑や石造物の話であったな。しかし、第59号で話した60年に1度やってくるご縁年の話をすっかり忘れてしまったので、まずは、ご縁年の話をしようと思うぞ。さて、ご縁年はいつなのか？12年前が庚申の年だったからのう、次のご縁年は、48年後じゃな。』

『48年後のご縁年か・・・おいらは、生きていないでまっすん・・・』

『そうそう悲観することではないぞ。通信を通して庚申講の話をするすることで、48年後のご縁年がきたら、わしやクニマッスンを思い出してくれる人もいるかもしれんからな。誰かの記憶に残ることができたら、生き続けているんじゃよ。それが、継承するということかもしれん。様々な継承の形があるが、石碑や石造物というのは、教訓を後世に伝えるための昔ながら知恵なんじゃよ。紙に残しても紛失することがあるかもしれん。また、焼失する心配があるじゃろう。石に刻むということは、確実に残る手段なんじゃ。東日本大震災から5年の歳月が経ったのう。当時、いくつかの地域には、大津波の後、その教訓を刻んだ石碑が残されていたと報道がされていたんじゃ。しかし、その教訓を生かすことができなかつたのは、後世に生きているわしらが、先人達の思いを継承できていないということだと思ふんじゃ。歳月が経つというのは恐ろしいことじゃ。歳月が経てば経つほど記憶は薄らいでいくんじゃな。継承するというと難しいことではないように思ふじゃろうが、時間の経過とともに薄らいでいく記憶を意識して、次の世代に語り継がなくては継承したことになるんじゃよ。』

『そうかもしれないでまっすん。お金さえ出せば、何でも手に入る時代でまっすん。けれども、自然災害の前に、なすすべはなかつたでまっすん。石碑や石造物を通して、先人達の思いを再確認しなくてははいけないでまっすん。』

『忍野村には、多くの石碑や石造物があるんじゃが、特に馬頭観音が多いんじゃよ。高冷地で稲作が不適な土地のため、自給自足はできたんじゃが、現金を得るために、馬を使つての駄賃稼ぎをしたんじゃよ。馬は家族同然だからのう。馬頭観音は、その恩恵を感謝する意味が込められたものなんじゃ。しかし、昔に比べると石造物の数が少なくなっているんじゃよ。』

『石碑や石造物が減っているというの、どういうことですか？』

『断定はできないんじゃが、いくつかの仮説があるんじゃよ。その話は、次回にしようかのう・・・』

『とても、気になるでまっすん。けれども、馬頭観音の話だけでも、今では想像できない村の営みがあったのに、そのような記憶はすっかり薄らいでしまっているでまっすん。それではダメでまっすん。何事も継承でまっすん。講左衛門さん、次回も楽しみにしているでまっすん。』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん...



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)